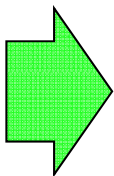
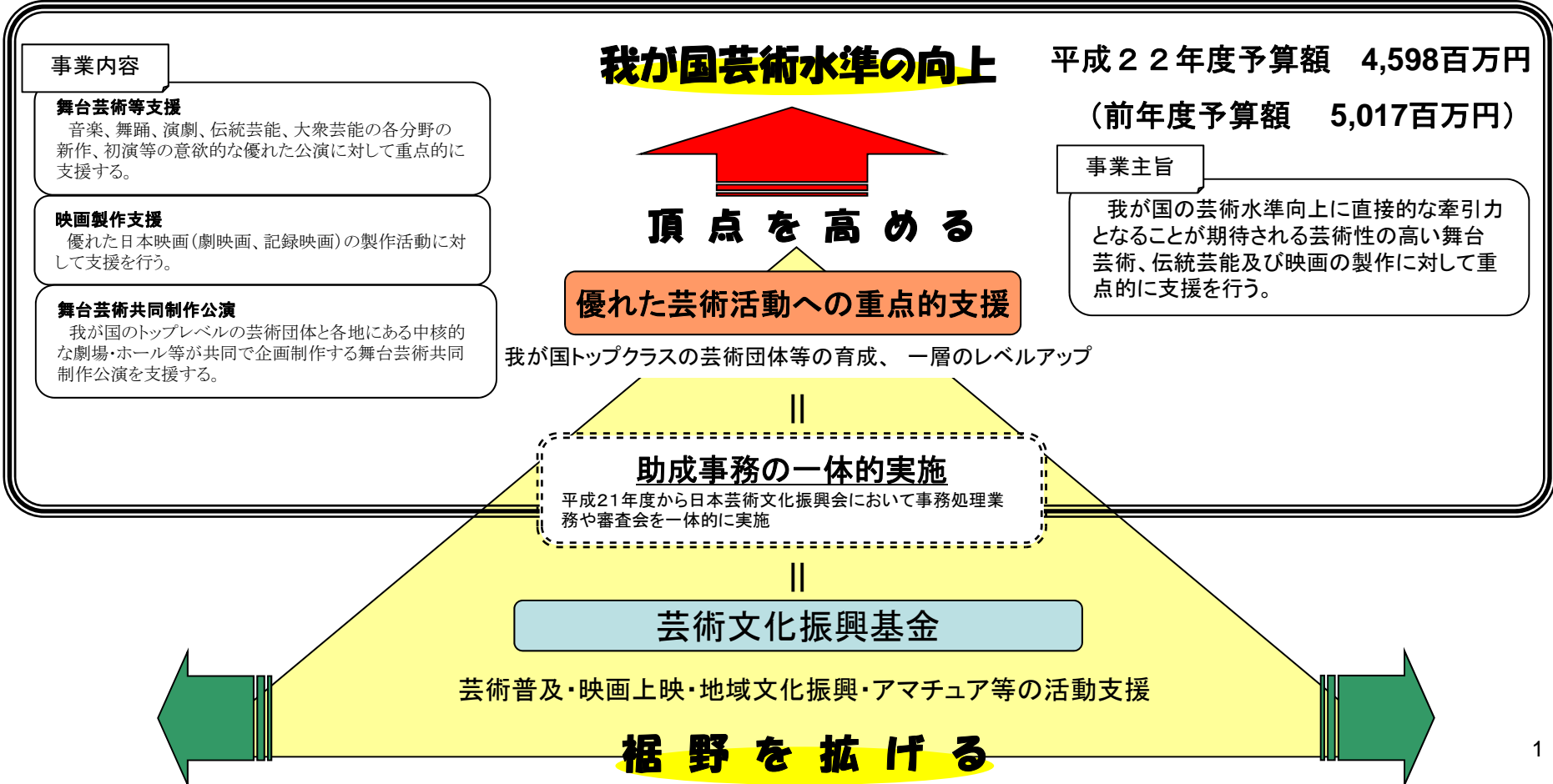


優れた芸術活動への重点的支援 ～ 我が国の優れた舞台芸術・伝統芸能及び映画製作活動に対する支援 ～

公的支援の必要性
芸術活動については、準備に多くのコスト・期間を要し、一回の上演に収容可能な観客数や回数に限界があるなど、構造的に収支バランスがとりにくく、市場原理に委ねられない。



期待できる効果
芸術水準が向上することにより
①ゆとりと潤いを実感できる、心豊かで夢のある国民生活を実現
②観光、産業等の経済活動に新たな付加価値を生み出す源泉
③高い成果を挙げることで国家に威信を付与



優れた劇場・音楽堂からの創造発信事業

16億円(新規)

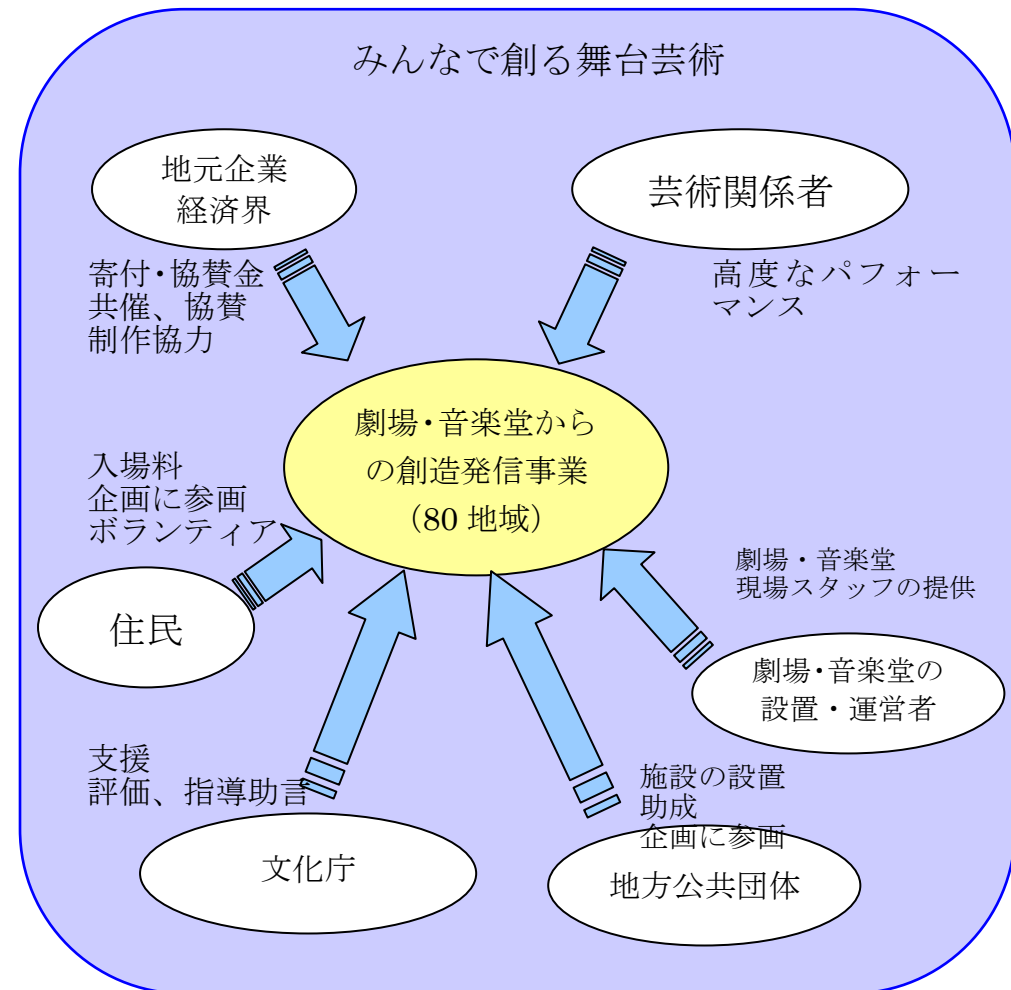
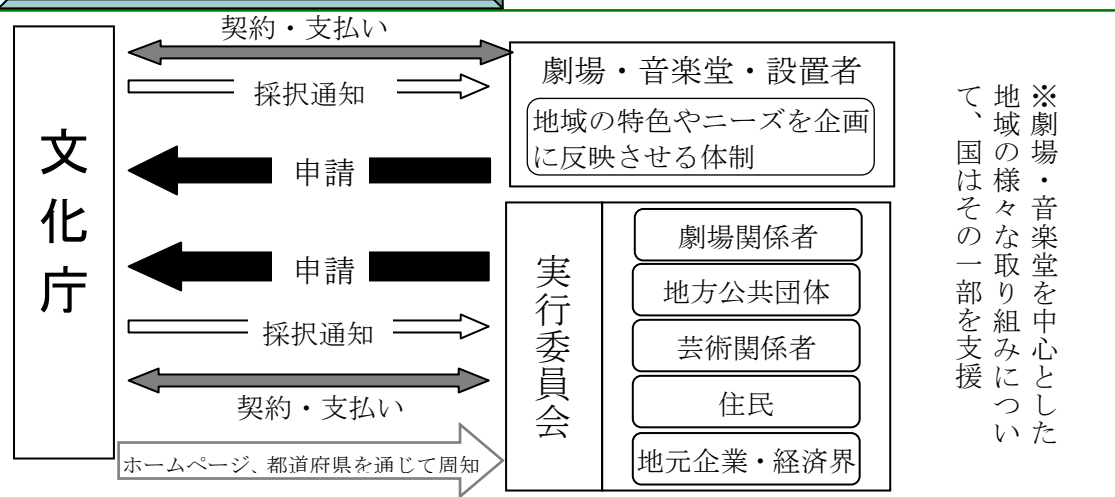
- 劇場・音楽堂が中心となり、地域住民や芸術関係者等とともに取り組む、音楽、舞踊、演劇等の舞台芸術の制作、教育普及、人材育成等を支援
 - 優れた舞台芸術の創造・発信を行える劇場・音楽堂が各地に育つ
 - 地域の文化芸術活動の活性化と住民の鑑賞機会の充実
- ・全国80地域程度を想定

【想定される事業のイメージ】

劇場・音楽堂を中心とした地域発の優れた取り組みに対して支援

- テーマを定めた舞台芸術フェスティバル
- 専属、フランチャイズの団体による公演など、優れた舞台芸術の自主企画制作公演
- 優れた舞台芸術の公演及びこれに合わせて行う以下の取り組み
 - ワークショップ
 - バックステージツアー
 - アマチュア団体との合同公演
 - 公演の企画制作業務へのインターンシップの受け入れ（アートマネジメント人材育成）
 - 地域文化リーダーや地域の芸術団体育成のための取り組み
- 近隣の複数の劇場・音楽堂による舞台芸術公演の共同開催・巡回公演
- 児童、青少年、地域住民を対象とした出張公演
- 海外の姉妹都市を拠点とする芸術団体の招聘公演

事業のスキーム



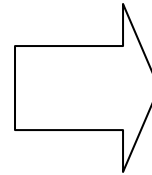
地域の芸術拠点形成事業

(平成21年度予算額 1,004百万円)

平成22年度予算額 **724百万円**

【背景・必要性】

- ◆これまで各地域では多くの文化会館等が整備されてきたが、そのほとんどがいわゆる「ハコモノ」であり、優れた芸術文化を創造・発信する「劇場」となり得ていない。
- ◆そこで、ソフト(自主企画・制作公演、アウトリーチ活動)、ヒューマン(芸術監督、アートマネジメント人材の育成)の活動を支援をすることで、既存の文化会館等(ハード)の中から地域の拠点を育てていく必要がある。



【期待できる効果】

- 地域発の芸術創造活動の活性化により、日本の芸術文化がより多様で豊かに。
- 芸術文化活動・鑑賞機会の東京一極集中の是正。
- 文化会館等を中心に、芸術文化を通じた地域の活性化・発展の促進。

【事業の概要】

地域住民にとって身近な文化芸術活動の場、ハイレベルな舞台芸術作品等を鑑賞する場である文化会館等のうち、地域の拠点となりうるものに対して、自主企画・制作公演、アートマネジメント人材育成など多角的に支援する。

<支援事業>

◆自主企画公演事業等支援

1. 自主企画・制作公演事業
文化会館や劇場が自ら企画・制作し、原則当該施設において実施する舞台芸術の公演。
2. 教育普及活動事業
地域住民等が参加するワークショップや講習会、交流活動等。

◆アートマネジメント人材育成・活用支援

アートマネジメント人材を配置し特色ある芸術性の高い創造活動等を行うとともに、近隣の文化施設や大学等から職員や学生を受け入れ、舞台芸術の現場で求められる資質や能力を養うための事業等。

◆劇場・音楽堂活性化支援

文化施設が事業を行うために必要な各種情報の提供及び職員の資質向上のための研修等を文化庁において実施。

<支援対象>

地域の文化芸術拠点として、計画的、継続的に一定の規模の事業を行う施設

<支援施設数>

平成22年度は36箇所を支援

新進芸術家の養成

前年度予算額 1,755百万円

22年度予算額 1,572百万円

【背景・必要性】

- ◆国内の芸術団体等において、新進芸術家の育成を実施してきているものの、優れた才能を持つ者を適切に評価し伸ばしていく環境は十分とはいえない。
- ◆また、研修等を受けた新進芸術家が国内で持続的に活躍する場が少ない。
- ◆このため、新進芸術家が自らの才能を伸ばし、積極的に活用して国民が幅広く芸術文化を享受できる環境を整備していく必要がある。

新進芸術家の海外研修
564百万円

新進芸術家の人材育成 1,008百万円

・新進芸術家の海外研修

我が国の将来の文化芸術の振興を担う人材を育成するため、美術、音楽、舞踊、演劇、映画等の新進芸術家に、海外で実践的な研修に従事する機会を提供

【派遣人数】 118人

【派遣期間】 1年(200~350日)、2年(700日)、3年(1050日)及び特別(80日)の4種類

【支給対象経費】 往復航空運賃・支度料・滞在費

<これまでの主な派遣者>

| | |
|---------------------|------------------|
| 絹谷幸二(美術:洋画 S52) | 佐藤しのぶ(音楽:声楽 S59) |
| 諏訪内晶子(音楽:器楽 H6) | 森下洋子(舞踊:バレエ S50) |
| 野田秀樹(演劇:演出 H4) | 野村萬斎(演劇:狂言師 H6) |
| 崔洋一(映画:監督 H8) | 鴻上尚史(演劇:演出 H9) |
| 平山素子(舞踊:モダンダンス、H13) | 長塚圭史(演劇:演出 H20) |

・芸術団体人材育成支援事業

我が国の芸術家・芸術団体等を幅広く構成員とする協会等の団体、伝統文化の保持団体等が行う人材育成、調査研究事業の支援を通じ、芸術創造活動の基盤整備を図る

【対象事業】

- | | |
|------------|-------|
| ①人材育成・普及活動 | 103事業 |
| ②調査研究・情報交流 | 25事業 |
| ③伝統芸能等人材確保 | 12事業 |

・新進芸術家の育成公演

優れた能力を有しながら発表の機会が乏しい新進芸術家を対象とする公演、展覧会等を開催することにより、次代の芸術文化の担い手を育成するとともに、新しい芸術表現に対する国民の観賞ニーズを喚起する

【対象分野】 美術、音楽、舞踊、演劇

【事業数】 5事業

【効果】

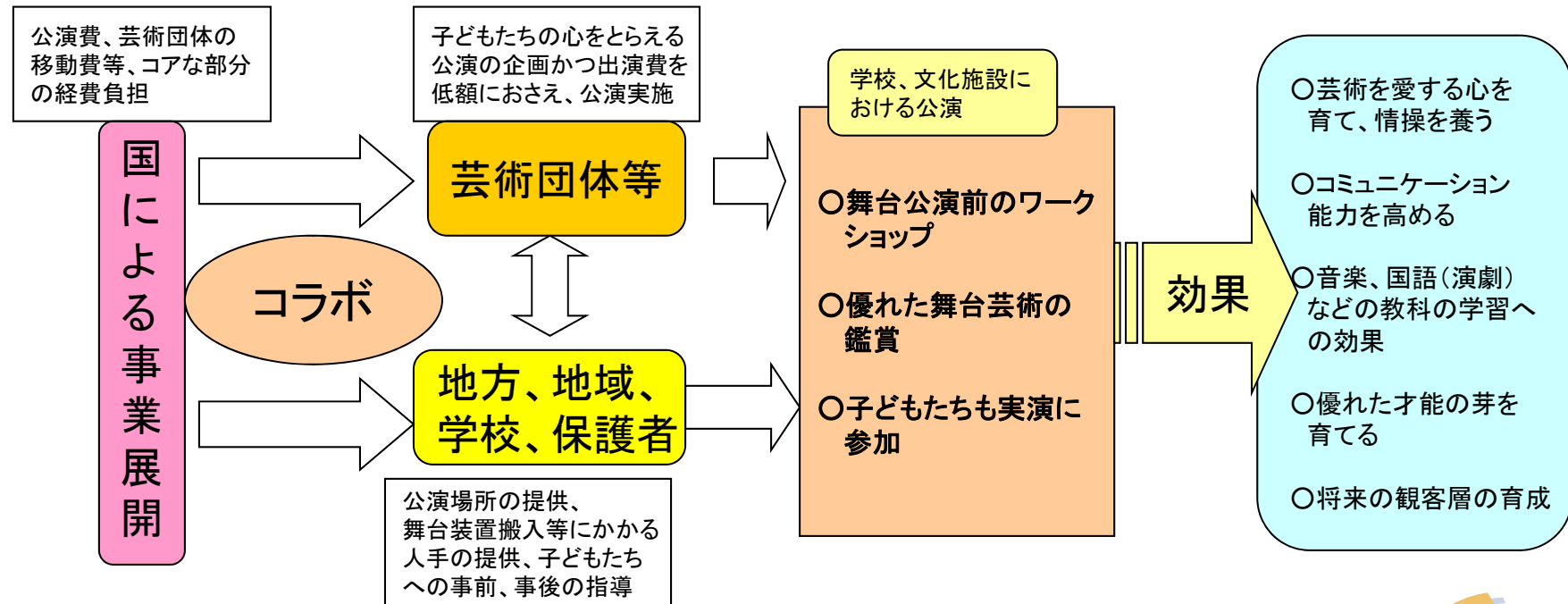
- ・第一線で国際的に活躍するために必要な知識、技術、技能等を身につけた新進芸術家の育成。
- ・活躍の場や観客の増加による、芸術家の処遇の改善、社会的地位の向上。
- ・卓越したプロフェッショナルな人材が生まれ、それを志す新たな人材に刺激を与え、芸術界の活性化に繋がること。

子どものための優れた舞台芸術体験事業

22年度予算額 4,975百万円(新規)

目的

次代の文化の担い手となる子どもたちが、優れた舞台芸術を鑑賞し、芸術文化団体等による実演指導、ワークショップ、これらの団体等との共演に参加し、優れた舞台芸術に触れる機会を提供することにより、子どもたちの芸術を愛する心を育て、豊かな情操を養うとともに、コミュニケーション能力を高めつつ、優れた才能の芽を育て、将来の観客層の育成を図る。



事業内容

- ・文化庁の選定した芸術団体が全国10ブロックで、巡回公演を実施。
- ・芸術家個人や小グループを派遣し、文化芸術体験事業の実施。



芸術による国際交流活動への支援

～優れた芸術の国際交流活動について支援することで、国際交流を推進～

公的支援の必要性について

我が国の芸術団体が独自予算のみでは実現が困難である海外での公演を支援することにより、世界の人々に日本文化に触れる機会を提供するとともに、現地の人々との国際交流を図っている。

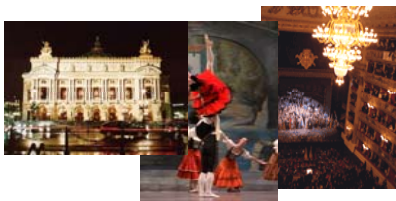
海外で活躍できる資質をもつ芸術団体に機会を与えることにより、日本文化の発信力強化に繋がり、国際交流のネットワークを拡げていくことで、我が国の国際文化交流の推進に資する。

平成22年度予算額 1,124百万円（前年度予算額 1,549百万円）

我が国と外国との二国間における芸術交流と海外の優れた芸術団体との共同制作公演や世界で開催される有名な国際芸術祭等への参加を支援することにより、芸術による国際交流を推進するとともに、世界最高水準の芸術家の養成を図る。

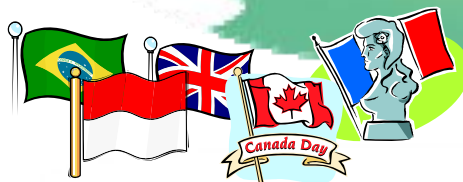
海外フェスティバル等への参加

芸術団体の国際交流活動を支援



二国間交流事業

文化芸術に関する国際的な相互交流を強化



国際共同制作

海外からの参加を得た文化芸術の交流、作品制作ワークショップ等の展開



国際フェスティバル

我が国で行われる舞台芸術のフェスティバルの実施

